

フロルフェニコール100注射液

(豚用フロルフェニコール注射剤)

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、チアンフェニコール系合成抗菌薬であるフロルフェニコールを主剤に、グリセロールホルマルを溶剤として調製した注射剤です。このフロルフェニコールは肺組織への移行性が高く、アクチノバシラス・ブルコニューモニエに抗菌性を示します。

【成分及び分量】

本品 1 mL 中

有効成分	含量
フロルフェニコール	100 mg

【効能又は効果】

有効菌種

アクチノバシラス・ブルコニューモニエ

適応症

豚：胸膜肺炎

【用法及び用量】

1日1回、体重1kg当たりフロルフェニコールとして下記の量を筋肉内に注射する。

豚：5 mg、1～5日間

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的な注意)

- 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であってもそれを反復する投与は避けること。
- 本剤の使用に当たっては、治療上必要な最小限の期間の投与に止めること。
- 本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（豚）について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

豚：食用に供するためにと殺する前21日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- 使用時には、ゴム栓をエタノール綿等で清拭すること。
- 注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- 本剤を分割使用する場合は、開封後4週間以内に使用すること。
- 他剤と混合すると結晶が析出する場合があるので、他剤と混合しないこと。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- 誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。
- 取扱いに際しては、眼や皮膚に付着しないように注意すること。眼や皮膚に付着した場合には、直ちに水で洗い流すこと。

(豚に関する注意)

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- 1回の投与量が15mLを超える場合又は連続投与する場合は注射部位を変えること。
- 本剤を皮下に投与した場合、添加剤のベンジルアルコールによる組織障害が認められているため、確実に筋肉内に注射すること。

(専門的事項)

(対象動物の使用制限等)

- 本剤は実験動物で母体の体重増加抑制、胎子のわずかな化骨遅延が認められるので、妊娠動物には使用しないこと。
- 本剤は種雄豚に使用しないこと。

(重要な基本的事項)

- 本剤の使用に当たっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療上必要な最小限の投与に止めること。

(副作用)

- 本剤の投与により、一過性の下痢がみられることがある。下痢が3日以上継続した場合は投与を中止すること。

【包装】

100 mL × 1バイアル

【製品情報お問い合わせ先】

共立製薬株式会社 学術
〒102-0073
東京都千代田区九段北一丁目11番5号
TEL 03-3264-7559

【火気厳禁】

危険物第四類 第三石油類 危険等級Ⅲ
グリセロールホルマル、ベンジルアルコール
水溶性

製造販売業者

共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南 1-6-5

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。